

第六次大野市総合計画策定幹事会（令和元年度第4回）

日時：12月12日（木） 午後7時～8時20分

場所：結とびあ 305・306号室

出席者 第六次大野市総合計画策定幹事会委員 41名（欠席者12名）

※別紙名簿参照

政策局長、総合政策課長

総合政策課員

1 開会 幹事長あいさつ

2 報告事項

欠席者の報告

3 議事

（1）第六次大野市総合計画の将来像について

事務局より審議会へ提案する将来像（案）について説明。

- ・第3回幹事会での案を事務局で調整し、幹事長、副幹事長、専門部会長にご相談し、2つの案を作成した。

案1「人がつながり地域がつながる 住み続けたいまち」

- ・Dグループの案「人が 地域がつながり 住み続けたいまち」の中に「住み続けたいまち」という言葉が入っている点が、他の4案とは違うので案として選んだ。
- ・「人が 地域がつながり」を「人がつながり地域がつながる」に修正した。
- ・将来像は10年後のまちの姿なので、10年後に「住み続けたいまち」ではなく、今もこれからもずっと住み続けたいまちであるという思いを込め「住み続けたい」に修正した。
- ・「人がつながり」は、アンケートのキーワードで「結」や「人とのつながり」を挙げた人が多かったこと、また、「地域がつながる」は、幹事会での地域共生社会が重要であるという意見、地区別WSにおいても、「各地区のコミュニティと交流を深くし、市民の意見を直接聞いて、まちづくりに活用してほしい。」という意見もあったことから取り入れた言葉。
- ・「住み続けたいまち」は、幹事会での「安心で、一度外に出ても戻ってこれて、継続的に住めるまち」にしたいという意見や、アンケートで挙げられていた「持続可能なまちづくり」のつなげる意味を含んでいる。

案2「人とまち、自然が輝く 結の故郷」

（「人とまち、自然がキラリ 結の故郷」）

- ・考え方が共通しているところが多い
 - A グループ案「人と自然が輝き 誰もが生き生きと暮らせるまち」
 - B グループ案「自然にいだかれ 結のこころあふれる やすらぎのまち」
 - C グループ案「人とまちが輝く 結のこころあふれる 越前おおの」
 - E グループ案「キラリ 生き生き 結の故郷」
- をまとめたもの。
- ・この案は、E 案を基本に考えたもの。とても覚えやすくテンポがいいものだが、何がキラリで、何が生き活きなのか説明しないと分かりにくいのではないかと考え、「人とまち、自然が輝く」とした。
- ・A 案の「人」「自然」「輝き」、B 案の「自然」「結」、C 案の「人とまち」「輝く」「結」というキーワードを取り入れている。
- ・「人」「まち」「自然」の順番については、A 案 B 案を参考に、まずは「人」が輝くことが大切なので、「人」を最初にしている。
- ・「輝く」は、幹事会での「キラリ輝くまち」という意見から、「自然」については、アンケートで大野らしいキーワード「自然」が多くあったことから取り入れている。
- ・「輝く」とするか「キラリ」と表すかは、皆さんからご意見をいただきたい。

質疑等

- （委員）案2について、「人とまち」の後に読点があるが、これは何か意味があって読点を付けているのか。
- （事務局）読点については外してもよいと考えている。
- （事務局）「輝く」とするか「キラリ」とするかを諮っていただきたい。
- （幹事長）どちらがよいか挙手願いたい。
- ⇒読点を取った方がよいという方が若干多かった。
- ⇒「輝く」の表現がよいという方が多かった。
- （委員）読点があった方がよいという立場からの意見を述べる。案2については、「人」「まち」「自然」が『アンド (and)』なのだと思う。その場合、読点を入れないと言葉がおかしくなる。
- （幹事長）副幹事長はどのように考えているか。
- （副幹事長）案1、案2いずれの案についても第3回幹事会で皆さんが考えた意見をくんでいると思う。皆さんの様子をうかがうと、これでいいかな、と見受けられる。この2つで審議会に上げさせてもらいたいというところが正直なところ。案2については先ほど述べられた意見と同じ理由で読点があった方がよいのではと考える。
- （幹事長）これ以上意見が出ないようですので、案2については読点をつけるもの、

つけないものを並べて審議会にかけることとしたい。

(委員長) 案1について、「人がつながり地域がつながる」とすると、人と地域のつながりはないのか、と思う。

(幹事長) 私の意見を言わせていただけるなら、両方つながっているのではないかなと思う。人と人がつながって地域になり、地域と地域がつながっていくというイメージを持っている。

(幹事長) この2案を審議会に挙げさせてもらってもよろしいか。

⇒拍手で承認。

(2) 基本構想の構成と基本目標の分野について

事務局より説明。

「こども」

- ・アンケート、WSにおいて、人口減少、特に少子化に対する危機感は非常に大きい
- ・若い人が結婚して子育てしやすい環境づくりを望む声も多い
- ・大野の環境を生かして、大野らしい教育により人材を育てることが重要との認識から、教育と子育てを一体的に進めていく必要性を感じている

「健幸福祉（健康福祉）」

- ・人生100年時代、生涯活躍社会が到来している
- ・幹事会で「多死時代」という意見もあった
- ・担い手確保や社会保障費の抑制の面からも、いかに健康寿命を延ばすかがカギ
- ・現代医学の世界でもスポーツと健康は切り離せない
- ・テーマ名は案ではあるが、未来に向けて健康で幸せにというメッセージを込めて、「幸」を使っている

「地域経済」

- ・五次総の産業の分野を維持
- ・SDGsの観点から、産業でくくるのではなく、経済発展の面に着目し、稼ぐ力の向上の観点も考慮し、「経済」を使っている
- ・雇用の場創出に取り組んでいる一方、アンケート調査からも人材不足の課題が大きいことから、地域全体での担い手確保という観点も含んでいる

「くらし環境」

- ・アンケート、WS全般として水をはじめとする大野の環境が大事に考えられている
- ・WSでは、川や道など身近な生活基盤に対する意見が多く、インフラの維持が

求められている

- ・ごみの排出量や資源化に関する成果指標が五次総の 10 年間を通して達成できていない
- ・SDGs の観点からも市が誇る自然環境と調和した生活環境の整備をイメージしてこの分野を提案した

「結づくり（地域づくり）」

- ・これまでの4つの分野の核となる分野
- ・WSなどでは、集落での雪下ろしなどの助け合いや機能の維持そのものが困難という意見が多かった
- ・岡崎先生の話にもあった通り、防災や消防も地域での取組が重要
- ・伝統文化の継承も同様
- ・地域力の向上を軸として、さまざまな課題に一体的に取り組むことをイメージした

「行政経営」

- ・これまでの5つの分野の基盤となる分野
 - ・持続可能な行財政には、マネジメントがより一層重要との観点で、仮に「経営」という言葉を使っている
-
- ・第五次総合計画では「柱」という言葉を使っていたが、そのイメージから、場合によっては縦割りと捉えられる
 - ・第六次総合計画では、SDGsにおける経済・社会・環境の3側面の相乗効果の理念を参考に、「結づくり（地域づくり）」を中心として5つの分野がそれぞれ関連しながら将来像の実現のために施策展開していき、それらを「持続可能な行政経営」が支えているといったイメージを事務局としては持っている

質疑等

- （委員） 2点質問したい。今示されている6つの分野すべてが基本目標になるということか。第五次の基本目標の表現と、この案の表現では全然性質が違っている。第六次については単に分野を示すだけにするのか。2点目だが、「結づくり」という言葉は初めて聞いた。第五次総合計画の P12 に記載がある「結の故郷づくり」との違いは。これまでは「結の故郷づくり」という言葉が一般的に使われていた。「結の故郷づくり」という言葉はあらゆる取り組みを含んでいるものだと思うが、概念が変わるのか。
- （事務局） 1点目の質問についてだが、今示しているものは分野を表しているものであり、次回の幹事会にて、それぞれの分野における第五次の基本目標の表現のようなものを皆さんで考えていただきたい。2点目についてだが、

事務局では当初「地域づくり」と考えていたが、「結」にはみんなで助け合うといった意味が込められていることから「結」という言葉を使った。

(委員) 「結づくり」と「結の故郷づくり」では中身が違うのか。

(事務局) 「結の故郷づくり」という概念は、あらゆるものを包括しているものということに間違いはない。「地域のつながり」を表すものを「結づくり」と置き換えたもので、深い意味はない。

(委員) 議論の出発点として言葉の概念をしっかりと整理しておいてもらわないと議論がうまく整理できない。感覚的な言葉が使われるようになると整理ができなくなる。地域にかかわることを集めている分野であるという意図は分かるが、例えば交流、消防、防災はこの分野の中に入れるべきなのかということも概念がしっかりしていないと、結論が出しにくい。

(事務局) この分野の名称が「結づくり」でなくても、「地域づくり」、「むらづくり、まちづくり」といったものでもよいと考えている。固執しているわけではない。

(委員) 今後の専門部会の流れについて教えてもらいたい。

(事務局) もし、この案がお認めいただけたら、今の5つのグループを6つのグループに再編成したい。後ほど(3)にてお諮りしたい。

(委員) 今示されている案の分野ごとにグループ分けをし直して議論をするということではいいか。

(事務局) そのように考えている。

(委員) 行政経営に「市と市民の協働」とあるが、「地域づくり」に入るものではないかと思うがいかがか。

(事務局) 市役所だけでは運営できないのが現実になっている。これからは市役所のできる分野、市民に頑張ってもらって分野があるが、それぞれが協働することで様々な活動を下支えしていくということから行政経営の中に入れている。

(委員) 地域づくりの中にある「地域での支え合い」について、福祉の社会では「地域共生社会」が大きなキーワードになっている。地域づくりの中に「地域共生社会」をぜひ加えてもらいたい。

(事務局) 「地域福祉」としようかという案もあったが、いわゆる福祉のイメージが強くなるので「地域での支え合い」とした。6つの分野に分けるが、縦割りにはしない。「こども」の分野においても「健幸福祉」の分野で子どもの健康について考える必要もあり、それぞれの分野で重なり合う部分が出てくるので、それぞれの分野で議論をしてもらいたい。

(委員) 部会の議論の中で、この資料に挙がっていないことも取り上げていいのか。

(事務局) ぜひともお願いしたいと考えている。

(委員) 「地域経済」分野の「内水面漁業」について、大野市の経済の中でどの

程度占めているか分からないが、すべてを網羅して議論しなければならないのか。大野市として基幹的な部分、特徴を出せる部分を議論していけばよいのか。

(事務局) 内水面漁業については、鮎釣りなど観光の面でも大きな役割がある。強弱の付け方については事務局で判断しにくい部分であるので部会にて議論いただきたい。

(幹事長) ほかに意見がなければ、基本構想の構成と基本目標の分野について、審議会に挙げさせてもらってもよろしいか。
⇒拍手で承認。

(3) 専門部会について

事務局より(2)で承認された基本目標の分野に沿って専門部会を再編成すること、再編成する中で幹事会委員の追加を検討することを事務局に一任してもらいたい旨説明。

質疑等

(委員) 委員の専門部会への所属分けについて、委員から「この部会に入りたい」といったことは申し出ることは可能か。

(事務局) 委員の皆様は専門的な分野からの推薦をいただいているので、それぞれの専門分野での議論をお願いしたい。

(幹事長) ほかに意見がなければ、専門部会について、承認してよろしいか。
⇒拍手で承認。

(4) その他

事務局より次回幹事会の開催日程について、1月下旬の降雪時期を予定しているため、平日夜の開催または休日昼の開催どちらが都合がよいか確認したいと依頼。
⇒希望を確認。平日夜の開催とする。

4 閉会 副幹事長あいさつ

いろんな意見が出て、これからの大野をよくしていきたいという現れだと思う。

【会議資料】

会議次第

第六次大野市総合計画の将来像について

基本構想の構成と基本目標の分野について